

学修・教育開発センター（CRED）

## 令和4年度 すべての授業日程が終了

本年度は、感染症拡大に十分配慮しながら授業運営にあたり、すべての授業を対面で行うことができました。担当教員とSAの皆さんに改めて感謝申し上げます。

学生はこの授業を通して、今の自分と正面から向き合い、博物館見学で本学の歴史を知り、仲間と社会問題を議論し、自分たちでできることを模索し、グループごとに考えをまとめ、プレゼン資料を協同で作成し、クラスで発表しました。

自分のこと、学校のこと、社会のこと、周りの人たちのこと。まずはそれぞれに関心を持つてみることで自分の世界が次第に広がり、そして自分にできることは小さく限られていたとしても、行動を起こし、何かを変えていくこと。建学の精神である「自主自律」、生活信条の「愛情・勤勉・聡明」の歩みがこの授業からスタートしたのだと、学生のアンケート記述から読み取ることができました。

後期には来年度の授業計画案の作成が始まります。本年度の授業運営を振り返り、意見交換会やアンケートでいただいた意見を参考に、より質の高い授業ができるように、CRED一同、尽力して参ります。今後も温かく見守っていただければ幸いです。



## &lt; 学生の授業アンケート紹介 &gt; 経験、気づき、これからの自分

## 初対面の人と物事を成し遂げる難しさ

最初は全員が初対面で、なかなか積極的な話し合いができませんでした。調べたことを共有しながらだんだんと打ち解け、お互いに意見を言えるようになりました。実感したのは、初対面の人と一つの物事を成し遂げることは簡単ではないことです。将来仕事で初めて会う人とプロジェクトを手がけるときのためにも、この経験ができてよかったです。

## 本学の歴史を知り誇らしく

この授業を通して、まず本校の歴史を知ることができました。この壮大な歴史のある東京家政大学に進学できて凄く誇らしく思いました。グループでは、男女関係なく育児に参加するためということについて調べ、自身もいつか家庭を持ち育児をする側になると思うので、育児休暇制度などを学ぶことは自分のためにもなりました。

## 真剣に問題解決をしようと行動すれば、個人ができることは少なくない

発表の準備を本格的に始めるまでは、自分たちが社会に貢献できることは限られていると思っていました。しかし、グループ内で社会問題を深掘りしていく中で、真剣に問題解決をしようと行動すれば、個人ができることは少なくないということに気がつきました。また、他のグループの発表を聞き、日本社会のリアルな現状や世界の制度など初めて耳にする情報が多く、とても勉強になりました。

## 第14回授業後課題「協同学習を振り返る」

## Keep：良かったこと／今後も続けたいこと

- 人の意見を否定せず受け入れてから、修正案を出した
- 細かいことも一人で抱え込まず、相談してみんなで考えた
- 直接会えなくてもグループLINEで進捗を把握しあった

## Problem：うまくいかなかったこと

- 問題の上辺ばかりを見ていて、本質を捉えるのが浅かった
- 意見を伝えるときに、周りを気にしてしまうことがあった
- 話し合いの内容をまとめるなどのリーダー的存在がいなかった

## Try：今後実施したいこと

- 誰かが言った意見の内容をもっと膨らませるような意見の発言
- 一方的でなく否定的な考えも取り入れたプレゼンテーション
- 人に甘えてしまったので、自分からすべきことを見つける努力

## 学びに熱心なメンバーと一緒に

大学に入って初めてのグループワークでわたしが学んだことは、東京家政大学の学生が自分の学びたい分野を意欲的に学んでいることです。発表の準備では、専門分野で学んでいる講義の内容を参考にし関連付けていました。自分の知識を発表に生かせるのは、普段から継続的に勉強しているからで、このメンバーと一緒に活動でき、感謝です。

## その場で質問できる力をつけたい

グループ発表では、最初と最後で調べてきたことの結び付きがなくなってしまったので、聞き手の立場で一連の流れを想像することが必要だったと気づきました。また、他の発表を聞いた時に、疑問に思ったことや深く知りたいことをその場で質問できる力を今後身につけていきたいです。

## 1年生の成長ぶり もっと自分も頑張らないと

英語コミュニケーション学科 2年 K.Yさん

大学1年生の時に、この授業でSAの先輩の姿が非常に魅力的で、自分もSAの先輩のような芯のしっかりした女性へ成長したいという思いが生まれました。そして、大学生活では今まで自分が挑戦したことのないことへ勇気をもって挑戦し、それをやり遂げたいという気持ちがあり、SAへ応募しました。


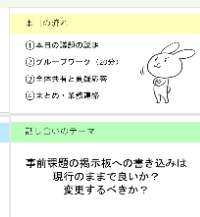
SAとして授業をサポートして一番思い出に残っていることは、第13回の授業で各グループの集大成となるプレゼンテーションを1年生が行ったことです。4月からSAとして、グループ活動時の巡回、アドバイス、感想を伝えるなど、クラスの1年生に寄り添ってきました。そして、第13回の授業で行われたプレゼンテーションで彼女たちの成長ぶりを目の当たりにしました。大学生活デビューから、どのように社会と向き合い、多様な力を身につけたのか、第13回の授業を通して振り返ることができました。また、自分自身が大学1年生であった時が懐かしくなり、大学生活の時間が経っていく流れの速さを身にしみて感じ、わたし自身もっと頑張らないと！と奮起させられた回でした。

SAの経験をしたからこそ、色々なタイプの1年生とふれあうことができ、クラスを担当する先生とも出会うことができました。その中で、個性を大事にすることの重要性に気づき、いかに自分を大事に考え、夢を大きく持って成長していくか、そのことを深く考えることができた経験でした。

8月2日(火)にオンライン形式で、SAによる司会のもと約1時間の教員SA合同意見交換会を開催しました。教員とSA、計21名が参加し事前課題の掲示板(manaba)への書き込みは現行のまま良いか？変更するべきか？をテーマに3チームに分かれて話し合いをした後、全体で意見の共有を行いました。

どちらが良いかだけでなく、色々な場面を想定した対応策等、多面的な視点から考えた意見が集まりました。今回いただいた意見は、後期の自校教育部に引き継ぎ、次年度以降の授業改善に活かして参ります。

また、この場をお借りして、意見交換会の運営を担当いただいたSAの皆さん、この会に参加いただきました全ての方々、に心よりお礼申し上げます。

	<p>①本日の課題の読み ②グループワーク (20分) ③事前課題と掲示板等 ④まとめ・質疑応答</p>
	<p>話し合いのテーマ 事前課題の掲示板への書き込みは現行のまま良いか？変更するべきか？</p>

## 教員SA合同意見交換会を開催

## 授業の集大成

## 第13回 学生のグループ発表

グループごとに7分間、自分たちが設定したテーマの問題点や解決策をプレゼンテーションしました。テーマと発表を聞いた他の学生からの感想を紹介します。

【発表テーマ】無意識の偏見をなくすためには  
【聞いた感想】偏見が持たれやすい対象を女性・外国人・高齢者に絞って説明していて、わかりやすかった。

【聞いた感想】食品ロス  
【聞いた感想】家庭でもできる取り組みや大学生としてできることなどに分けて、解決策をたくさん提起していて素晴らしい発表だった。

【発表テーマ】これからの学校教育  
【聞いた感想】教科書に登場する男女差の問題は全く自分では思いつかなかったので、面白かった。ブラック校則など最近まで自分たちと関わりがあった事柄がテーマで人を惹きつける発表だった。

担当教員 初めて授業を担当して感じたこと

## 卒業時にもう一度、講義室で全員と再会したい

毎回の授業が「主体的に」「知る」「調べる」「考える」「発表する」ことを意図的に計画され、manaba活用を前提とした事前・事後学修課題とチーム活動だった。そして、学修課題を基に共に学び合う仲間との意見交換やコミュニケーションは、大学生活をスタートした1年生にとって仲間の存在を認識できる意義もある授業だと感じた。初回授業で想像以上に緊張した面持ちで集まった1年生でしたが、自己紹介からチーム活動を通して自然と緊張がほぐれ自己を見つめる新鮮な眼差しと授業外でもチームメンバーと笑顔で話している場面がとても印象深く残った。それと同時に、コロナ禍でオンライン授業であった昨年度までの1年生に想い馳せると複雑な思いにもなった。

唯一苦労した点といえば、1限目授業だったため公共交通機関の運行トラブルの直撃を受け9時の時点で10名満たない日が複数回あり、急遽授業内容や方法の調整を強いられた。そのような時にでもSA(造形表現学科4年)が、履修生への気配り、目配り、心配りを持っていつも明るく、誠実な態度で対応してくださり心強い存在だった。履修者にとって個別に相談できる身近で頼もしい先輩、良きロールモデルとして映っていたと思う。

広いキャンパス内で「こんにちは」と声を掛けてくれた1年生をこれからも遠くから見守り続け、卒業時にはもう一度講義室で全員と再会して成長した姿を見届けたい願望を持ちつつ、卒業後5年後、10年後、20年後、40年後の輝かしい未来に期待したい。



中込 由美  
心理カウンセリング学科 教授